



長野高校
2 学年
SGH 通信

有隣

緑のファイルにまとめましょう
第 28 号
2017 年 6 月 27 日 (火)

本日の授業ですべきこと

初回は、gmail から開きましょう！

《A. 6/23(金)FWを実施した班》

フィールドワークを実施した班は、次のことを確実に進めましょう。

- (1) 書類 3 点の作成 (①報告書作成 (一人 1 枚), ②礼状作成 (各班 1 通), ③封筒の宛名き)
- (2) 書類 3 点 (報告書は班員全員分まとめる) を班担当教員に提出する
- (3) 必要な場合は、交通費補助申請書を作成する。

交通費補助の申請について

往復で 1,000 円を超過した分について、SGH 室廊下のレターケースにある、「フィールドワーク交通費補助申請書」(緑色)を一人 1 枚作製して、SGH 室に提出してください。

提出された分については上限 1,500 円で同窓会より補助がでる予定です。(申請書は班で 1 枚ではありません)

締切: 7 月 6 日 (木) (金鷲祭前夜祭の日です)

※ この日を過ぎた申請は一切受け付けませんので、注意すること。

(本日欠席した人には、班の者が責任をもって伝えてください。)

《B. 7/25(火)FWIIの実施にむけて》

- (1) FW 先の候補を決めて、Google ドライブ の「FWII 希望入力シート」の「事業所名」、「所在地」に入力する。できるだけ第二希望の欄も埋めておきましょう。すでに、アポイントメント許可を出した班には黄色に網掛けしてあります。(勝手に網掛けをしないこと！)

→ 6 月 30 日(金)の SHR で「アポイントメント許可書」または「重複会議のおしらせ」を配布します。

- (2) 「アポ許可」のある班は、速やかにアポイントメントをとり、7 月 10 日(月)までに書類 3 点を班担当の先生に提出すること。(書類 3 点・・・「依頼書の下書き」「宛名書きをした封筒」「FW 計画書」)

この間授業はありませんので、空き時間等で行うしかありません。ご承知おきください。

- (3) 7 月のフィールドワークに向けて「質問構想シート」を作成しましょう。

(Google ドライブに「7 月質問構想シート」で新たに作成することができます。)

《C. 写真提供のお願い》

フィールドワークは引率教員のいない活動ですが、それゆえ教員が記録写真を撮ることができません。そこで、SGH 活動の記録として校外に発信するための写真の提供をお願いします。

以下の条件にあう写真をできるだけ各班 1 枚、メールで送ってください。7 月の FWII の後でも構いません。

☆ 写真の条件

- (1) 生徒の活動する姿がわかる写真

OK の例・・・「生徒が野外で作業をしている姿」「生徒が話を聞いている姿」

「生徒が話し合いをしている姿」

NG の例・・・「建物や施設のみの写真」「単なる集合写真」「単なる資料だけの写真」

- (2) 生徒が写っている場合は、肖像権について本人の許諾が得られるもの。

写真は、「学校紹介」のホームページやパンフレットや、「研究集録」等様々な場面で利用させてもらうことがあります。

☆ 提出方法

- (1) メールにて SGH 推進室 (sgh-naga@nagano-c.ed.jp) に送信してください。

(2) タイトルに「OOOO 班 写真」と書いてください。(班の数字は半角で！)

(3) メール本文に写真の撮影日時、場所、状況の説明を書いてください。

《D. 個人レポートについて》

フィールドワークⅡまでの内容について、ワープロソフト (Word や Google ドキュメント など) を使用して、**プリントアウトをしたものを提出してください。**

Google ドライブに Google ドキュメントで「課題研究レポートサンプル」を共有ファイルとしました。 このドキュメントのコピーをして書式を使いながら書き直しても良いし、Word に変更して作成して書き直しても構いません。共有ファイルのまま書き直すと、自分のものとして保存されませんので、注意をしてください。

言語：日本語または英語

用紙サイズ：A4 版・縦方向、横書き

余白：「やや狭い (上下 25.4mm, 左右 19.05mm, 46 字×38 行)」

フォント：MS 明朝または Century タイトルのみ 12 ポイント, その他 10.5 ポイント。

提出締切： 8月23日(水) 夏休み明け初日

◇ レポート作成上の注意事項 (別紙の「記入例」を参考にしてください)

- ・ **班名** [左寄せ 10.5 ポイント]
1201~6757 班。数字は半角を用いること。英語論文でも「班」は漢字。
- ・ **タイトル (Title)** [センタリング 12 ポイント]
少々長くなっても良いので、研究内容を過不足無く表現する。
- ・ **筆者 (Author)** [右揃え 10.5 ポイント] → 2年○組△番 氏名 (2-○ No. △ Name)
- ・ **指導教員 (Supervisor)** [右寄せ 10.5 ポイント] → 氏名 (Name)

[1 行空けて本文とし、以下は左揃えを基本とし、10.5 ポイント]

I はじめに (Introduction) 予備知識 (先行研究の説明) と目的 (最終的に解明したいこと)

研究動機 (なぜこのような研究に取り組んだのか、このテーマを設定した理由)

目的 (最終的に解明したいと思っていること)

予備知識 (先行研究の説明、問題の背景など)

II 方法 (Method(s)) ← 調査 (実験) の方法

複数ある場合は、適宜分けて説明する。

- (1) 事前調査・・・文献やインターネットなど具体的なものを示して調査内容を説明する。
- (2) フィールドワーク I・・・目的 (課題の仮説), 日時, 場所, 取材した方を明記する。
- (3) フィールドワーク II・・・目的 (解決策の仮説), 日時, 場所, 取材した方を明記する。

本文は、①②③・・・や(a)(b)(c)・・・など、適宜「節」を設けて、読みやすくなる工夫をしましょう。

III 結果 (Results)

表や図 (グラフ, 画像) など活用して、**事実だけを述べる。**

- (1) 事前調査で調べた内容
 - (2) フィールドワーク I で聞いてきた内容 (またはそれに該当するもの)
 - (3) フィールドワーク II で聞いてきた内容 (またはそれに該当するもの)
- ※ 「方法」と「結果」をまとめて書いても良い。

IV 考察 (Discussion)

発見した課題と考えた解決策について、

仮説の検証過程およびエビデンスを示しながら論理的に述べる。

V まとめ (Conclusion)

研究全体を通してわかったことを簡潔にまとめる。

「楽しかった」などの主観的な感想を述べるものではありません。

参考文献 (Bibliography) ← 予備知識や実験考察の参考になった文献を列挙する。

著書名, タイトル, 書籍名の順 (ウェブサイトを筆頭に置かない方が良いでしょう)

謝辞 (Acknowledgement) ← 班担当の先生以外にお世話になった人がいれば感謝の意を表す。

伝統工芸の存続

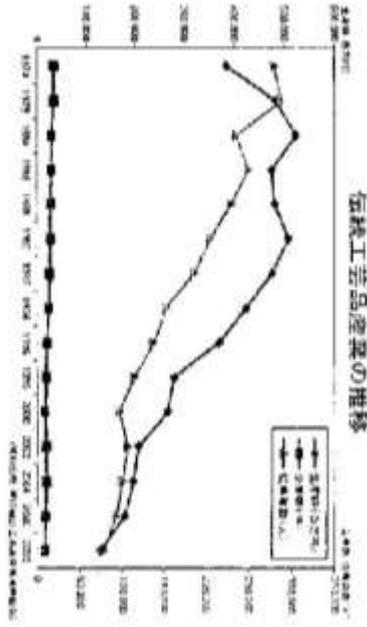


1 はじめに

1年時の課題で生産者の活動をを行い、新しいモノが生み出される瞬間を目の当たりにしてきた。その中で、新しいモノが生み出されることにより古いモノが淘汰されていることを知り、なぜ淘汰していくのか、また古いモノを存続させるにはどうしたらよいかに興味を持った。

調べていく中で淘汰していく古いモノとして伝統工芸品があることがわかった。そして、各県には本産地帯や産地帯を代表として国産7品目、県産18品目の工業品が伝統工芸品の指定を受けていることやそのほとんどが製造の一途をたどっていることを知り、伝統産業に焦点をあてていきたいと思った。

真佐、伝統工芸品の没業者や売り上げが年々減少しており、その背景として知名度の低さや需要の減少、技術者不足、販路商品の流通の困難などが考えられている。その中で需要の減少が最も大きな原因であると考えた。



2 方法 3 結果 (1) フェールワーク I 日時：6月7日 日：第1日：0 場所：小笠井織工場

取材した方 小笠井さん

長野の伝統産業に就事している方は現状をどのようにとらえているかを知るため小笠井織工場にフェールワークに出かけた。話の中で作業しているのはほとんどご高齢の方であることを知った。また、工房では売り上げ向上を図るための抽のほかにネクターなども織っていることわかった。話の中で聞いたのは、技術者不足が深刻であると言われていたが、実際は技術者が不足しているわけではなく技術者が作れないのが現状であるということだ。実際、若い人で織をやりたいと思っている人はいるが、今は織を織っているだけでは食べていけないのでお断りするしかないのである。また、技術者不足の他に売り上げが伸びないことが大きな問題になっている。売り上げが伸びない理由として知名度の低さがあり、知名度が低い影響で伝統工芸を産地帯とせよよりもできないのが現状であるとわかった。その他



にら刺う人が女性に置かれてしまり、そもそも産物を着る人が減少しているといった理由があげられる。これらの課題については県協会を行ったり反物以外にも手ぬぎなどの商品を作ったりと対策をしている。

(2) フェールワーク II 日時：7月28日 10:00~11:30 場所：長野県中の企業団体中央会 取材した方 鈴木幸一さん 上田寛裕さん

フェールワーク I で産地帯不足や売り上げの減少といった課題があることがわかったが、それに対し伝統産業全体ではどのような対策をしているかを知るために長野県中の企業団体中央会を訪れ、鈴木幸一さん、上田寛裕さんにお話を伺った。お話から、長野の伝統産業の売り上げは前半前に比べ半分以下まで落ち込んでいることがわかった。そこで伝統工芸品の販売を促進するために県を目的とした見直しを行った。また、大きな需要が分かれなかったため作品を出品する側も売り先でなく買ってもらうことを知った。また、ここでも技術者不足が大きな問題とされていた。ただ、技術者は不足しているがクラフトをする人は増えている。つまり、伝統工芸品が売れているわけではなく需要が伸びているということである。また、伝統工芸品に認定されるには厳しい条件が必要であるため売って買っていないこともあった。クラフトのように国々でやることによって伝統工芸品が売れることはないが伝統的な技術が売れていくのではいかと懸念されている。

4 考察

フェールワーク I で伝統産業の衰退の直接的な原因は売り上げの減少であるが、それが結果的に技術者不足につながっていることがわかった。しかし、売り上げの減少の原因となっている消費者の低さは県協会を通じて改善しようとしているがあまり効果はみられていない。知名度を上げるためには伝統工芸品を知ってもらえる機会を増やすことや商品を工夫することが重要である。だが、ただ伝統工芸品を知る機会を増やしても大きな変化がみられなかったことから機会を増やすだけではあまりよい解決策ではないと考えられる。機会を増やしつつ売り方や販路、内容を工夫していくことが必要だ。また、伝統産業の衰退は半面スタイルや経済の悪化によっておこったものと考えられるので伝統を大切にしつつ変わっていくことも重要である。

5 まとめ

伝統産業の衰退の理由は売り上げの減少である。売り上げの減少を止めなければ技術者を作ることができず、産業者がでなければ高コストでしか販売してしまおう。また、技術者ができないことで、今まで強いていた技術が失われる可能性がある。この問題は売り上げの減少、技術者不足、知名度の低さなど複数の課題が絡み合っているため課題同士がどのようにつながっているかをより詳しく調べ、伝統工芸品を知ってもらう機会をどのように活用していくかを考えることが必要だ。